

身近な 草・木・花 [8月]

フヨウ (芙蓉) アオイ科、落葉低木 花期；7~10月、果実；10~11月に熟す。

フヨウは毎年夏に、バス停への階段降り口わきに薄いピンクの清楚な花を咲かせる。この花の原産地は中国中部と推定されている。古くから庭木や公園などに植えられている。日当たりの良いところを好む植物で、沖縄では春と秋の2回開花する。花は1日花で、朝開いて、夕方にはしぼむ。花の色は淡紅色の他に白色の花もある。



(写真上左) 花(14 8/4) (右) バス停階段上のフヨウ(14 8/4) (下左) 蕾(14 8/4) (下右) 実(14 10/4)

ムクゲ (木槿) アオイ科、落葉低木 花期；8~9月、果実；10月頃

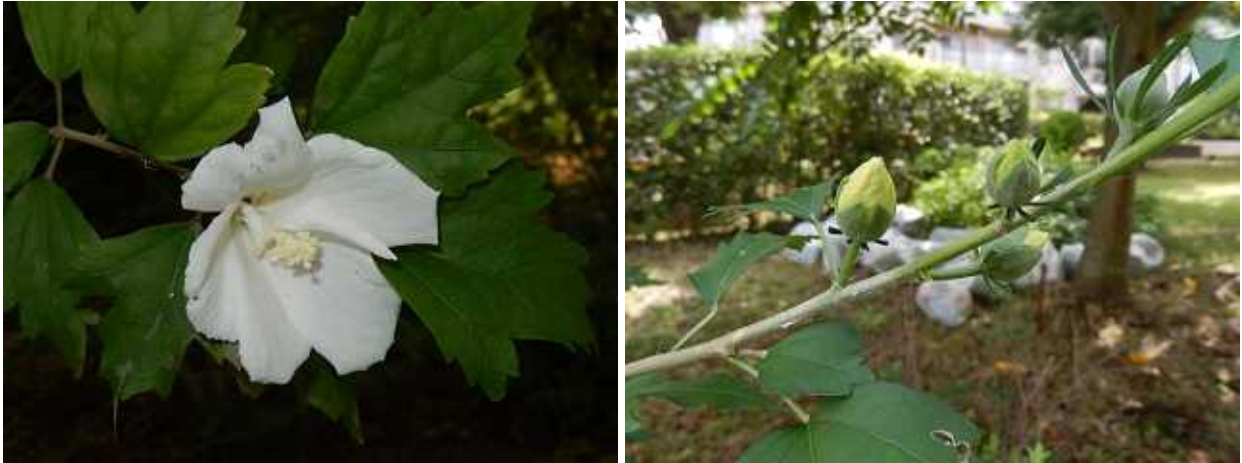
場所；中央広場生垣の後ろ、1号棟北側駐車場と進入路の間

この花は、中国原産説と原産地不明説がある。各地に栽培されている。日当たりさえ良ければ、放任状態で育つ丈夫な木である。

ムクゲもフヨウと同じく、朝開いて夕方にはしぼんでしまう短命な1日花である。“ 栄華の儚さ、人の世の儚さを、「槿花(きんか)一朝の夢」などといって、木槿に例えていわれる ” (HP、)

しかし、“ この植物の一つひとつの花の寿命は短い、花が次々と咲き、花の咲く期間はかなり長い。夏の初めから秋にまでおよぶ ” という記事も見られるが、わが団地のムクゲは、中央広場のムクゲも1号棟北側のムクゲも、花はわずかしき咲いていない。その存在に気づく方は少ないのではないかと思う。

花の色は紅紫色、白色、桃色など様々、中心部が紅色になるものが多い。(クロスガーデンのムクゲは木いっぱい咲いてすごかったですね) しかし、当地のものは白色のみで、あまり目立たない。



(写真左) ムクゲの花 (15 8/16) (右) ムクゲの蕾 (16 8/3)

【 参考; フヨウとムクゲの違い 】

フヨウもムクゲも同じような花なので、区別に苦労します。なんとなく花の色で見るだけでははっきりしません。でも、次の事に注目すれば、すぐに分かります。

葉の大きさと形の違い

フヨウ; 葉が大きく、切れ込みが浅く、全体的に丸く、うちわのような感じ

ムクゲ; 葉が小さく、切れ込みが深く、やや細身で、手のひらを開いたような感じ

雌しべ、雄しべの違い

フヨウ; 雌しべの先が曲が上を向いて曲がる。雌しべの先端が広がって見えるが、よく見ると5裂している。雄しべが雌しべのまわりにブラシの様に広がっている。

ムクゲ; 雌しべはまっすぐ。その周りに雄しべがつくが、広がっている感じはしない。

フヨウ(左)と
ムクゲ(右)の比較

(上) 葉の違い



(下) 雌しべ、雄し
べの違い



ツククサ (別名ボウシバナ) ツククサ科 花期; 6~9月

朝早く露に濡れながら花を咲かせるところからこの名がついた。また、帽子花とか蜻蛉草とも呼ばれ親しまれている。古くは花の汁をこすりつけて布を染めたことからツククサ(着草)とも呼ばれた。道ばたや草地などにごく普通に生える1年草である。



(写真左) ツククサの花 (15 8/16) (右) 横から見た花、苞の間から花を出している (14 8/7)

〔帽子花〕 右の写真のように、花は二つ折りになった舟形の苞(ほう)に包まれている。図鑑では「この苞の形から帽子花と呼ばれている」と解説されているが、帽子に見えるだろうか？私の眼には、ヨーロッパ中世の貴族のひだ襟(ラフ)を思い浮かべてしまう。それより、ブルーの花びらが、頭にかぶった帽子のようにも見え、トンボの目のようにも見えるのではないかと思われるのだが。

〔朝露の花〕 ひとつの花は半日しか咲かないが、二つ折りになった苞の間から、次々と出して花を咲かせ、夏の間中いつまでも咲き続ける。儂いばかりの花ではない。

初めに“朝早く露に濡れながら”と書いたが、「実はツククサは葉の先端に余分な水分を体外へ排出する水孔(すいこう)と呼ばれる穴があり、夜の間はこの穴から排出された水分が水滴となって露のように見えるだけ」とのこと。

マツヨイグサ (メマツヨイグサ) アカバナ科 花期; 6~9月

場所; 10号棟西側陸橋の前後や旧わんにゃんフェンス沿い

夏の野草と言えば、ツククサにマツヨイグサ。多摩センターへの道すがら、毎日このマツヨイグサのお出迎え、あるいはお見送りを受ける事になる。誰もが知って、親しんでいる花である。

ところで、この付近で見られるのはほとんどがメマツヨイグサである。従来のオオマツヨイグサは地方へでも行かないとまず見られない。

『草木夜ばなし・今や昔』 (1989年刊) には、「近ごろ、東京近郊の空地や路傍にたくさん咲いているのはメマツヨイグサ。戦前までは、東京近辺もオオマツヨイグサが多かったが、戦後はすっかりメマツヨイグサにとって代わられた」とある。

この近辺で見られるメマツヨイグサは、北アメリカ原産の2年草。明治中期に渡来し、各地の道ばたや荒れ地、河原などに野生化している。高さは0.5~1.5メートルとなるが、花は黄色で、直径2~5センチほどで小さい。



メマツヨイグサ (左) 2013 8/26 7時27分 (右) 2014 8/24 7時27分

8月下旬の日の出は5時7分頃、日の出から2時間20分経過後まだ咲いていた。



(左) メマツヨイグサ 2013 8/7 8時32分 (日出4時54分頃) 日の出後3時間半、花しぼむ

(右、参考) マツヨイグサ 2013 8/26 7時24分 (上左と同日同時刻) こちらは早々に花に赤みが差してきた。花の傍らのしぼんで赤くなっているのは、前日にしぼんだ花。

この写真から、マツヨイグサ(右)はしぼんで赤くなるが、このメマツヨイグサ(左)は花がしぼんでも赤くならない事が分かる。

【 マツヨイグサの開花時刻 】

上の写真に、マツヨイグサの撮影時刻を示した。

ところでこのマツヨイグサの開花時刻について、図鑑や参考書にはどう記されているだろうか？

「夕方開いて翌朝しぼむ」「夜開いて、翌朝しぼむ」。同じ出版社の2冊の図鑑の表示がこうである。どうもあやふやである。さまざまな本を調べてみると、「夕暮れになると一斉に咲きだす」みたいに書いてあるものも多い。一体、どれだけ実際に確認して書いてあるのか、ただ他の参考書を鵜呑みにして、無批判に引用しているだけのような気もする。

花がしぼむ時刻については、ただ「朝」というだけ。天気予報用語では「6時頃～9時頃まで」が朝の

範囲である。だから間違いではないが、これではどうもはっきりしない。また別の本には「翌日の朝にはもう萎れかかっている」とも書かれている。

私の身の回りで見た限りでは、「日没 1.5～2 時間後位に開き、日の出から 2～3 時間後にしぼむ」ようだ。9 月に日が短くなってくると、開花時刻も少し早まってくる。ただし、この観察結果にも疑問もある。街灯の影響がどうなのかということ。光を通さない袋をかぶせて観察するか、それとも街灯の無い山の方へ行って観察すべきか と言いながらも、私自身もそこまでは確認していない。

この文を読んでいただいている方がおられたら、手元の図鑑を開いてほしい。マツヨイグサが昼光の下での写真が載っているはず。決して暗闇に浮かぶストロボをたいての写真ではない。つまり、日の出とともにしぼむのではなく、太陽が昇って、しばらくは花を開いている証拠である。

もし、夏休みの自由研究に植物観察される子供さんがおられたら、何事も自分の目で観察してほしい。先生が言われたとおりに従うのではなく、図鑑に書いてある事を鵜呑みにするのではなく、自分の目で納得のいくまで観察していただきたい。それが科学への一歩です。

(追記 . 図鑑がダメだと言うことではありません。99 パーセント正しくとも、残りの 1 パーセントがどうかということです。私自身、植物の研究者ではありませんが、このような小文をまとめるためにいろいろ植物の事を調べていると、疑問に出会うことが一度二度ではありません)

【 参考書 】

- 『身近な雑草の愉快的な生きかた』 稲垣栄洋著 ちくま文庫
 - 『雑草のはなし』 田中修著 中公新書
 - 『都会の花と木』 田中修著 中公新書
 - 『草木夜ばなし・今や昔』 足田輝一著 草思社
- ～ までは前号までの巻末を参照

(写真・文 ; 石川)